

| 施設名 | 展覧会・イベント | 日時・場所 | 費用・定員・申し込み等 |
|---------------------------------|---|---|---|
| 貞享義民記念館 ☎77・7550 | 安曇野から考える人権展 | ☎12月6日(火)~23日(金) 9:00~17:00 | ☎無料(常設展は有料) |
| 安曇野高橋節郎 記念美術館 ☎81・3030 | 北穂高芸術展 | ☎11月19日(土)~12月4日(日) | ☎無料 |
| | オープニングイベント・ミニコンサート | ☎11月19日(土) 10:10~10:30(開場10:00) | |
| | 安曇野ライアーの会 クリスマスコンサート | ☎12月3日(土) 14:00~15:00 | ☎要入館料 ☎11月29日(火)から電話で |
| | 日展工芸美術長野県入選者展 | ☎12月20日(火)~2月26日(日) | ☎要入館料 |
| 豊科近代美術館 ☎73・5638 | 友の会ウィンターコンサート 母娘ユニット「ましゅまるまま」 | ☎12月4日(日) 13:30~15:15(開場13:00) | ☎500円(一般) 無料(友の会会員) ☎60人(先着順) ☎11月29日(火)から美術館 へ直接または電話で |
| | しめ縄講習会 | ☎12月23日(金) 9:30~12:00 | ☎100円(一般) 無料(友の会会員) ☎15人(先着順) ☎はさみ、座布団、持ち帰り用 の袋 ☎11月29日(火)から美術館 へ直接または電話で |
| 穂高交流学習センター 「みらい」 ☎81・3111 | PIANO DAY in MIRAI 2023 ホールを独り占め! グランドピアノを無料開放! ソロ・グループ問わず申し込みできます | ☎1月8日(日)、9日(月・祝) 10:00~20:45 | ☎無料 ☎6~11組/日(先着順) ☎45~105分/組 ☎12月14日(水)10:00から 電話で |
| 熊井啓記念館 ☎71・2463(文化課) | 熊井啓記念館ミニシアター 上映作品 帝銀事件 死刑囚 | ☎12月10日(土) 10:00~12:00 ☎豊科交流学習センター「きぼう」 多目的交流ホール | ☎無料 ☎50人(先着順) ☎11月30日(水)から電話で |



12月17日(土) ①10:00~12:00 ②14:00~16:00 (上映開始 30分前開場)

豊科交流学習センター「きぼう」多目的ホール

費用 無料 定員 50人(先着順)
申し込み 11月29日(火)から貞享義民記念館(☎77・7550)へ電話で

関連企画

第3回ふるさと学習講座

貞享騒動のその後

江戸時代前半の松本平、苦しむ百姓たちを救おうと命をかけて立ち上がった加助たち。一揆後の伝承や義民についても分かりやすく解説します。

☎12月11日(日) 13:30~15:30 場記念館研修室
☎寺島俊郎(館長) 要入館料
☎20人(先着順) ☎11月29日(火)から記念館へ電話で



貞享義民記念館開館30周年記念
貞享騒動「初は死なず」上映会
〜貞享義民悲願二斗五升〜
平成20年3月にまつもと市民芸術館で上演された演劇収録映像を上映します。
江戸時代の初め、生きる権利を主張して立ち上がった郷土の先人の生涯をご覧ください。

豊科郷土博物館 こたつ講座

学芸員たちがとっておきの話を紹介する全9回の講座です。こたつを囲んで話すような感覚で気軽に参加できます。興味がある講座のみの受講も可能です。冬でも心が温まる話をお楽しみください。

《共通事項》

☎右記のとおり 各回 10:30~11:30 場博物館2階学習室 要入館料
☎各20人(先着順) ☎各開催日の10日前から前日に電話で ☎☎72・5672 ID 78212
講座一覧

| 日時 | 講座名 | 講師 | 日時 | 講座名 | 講師 |
|-------------|---------------------------------|-------------------|------------|-----------------|------------------|
| 1 12月17日(土) | かわるもの・かわらないもの —博物館の断捨離— | 倉石あつ子 (博物館学芸員) | 6 2月18日(土) | 絵地図に江戸時代の安曇野をみる | 原明芳 (博物館長) |
| 2 12月24日(土) | 日本林業と樹木の研究に尽した林学博士 白沢保美 | 松田貴子 (博物館学芸員) | 7 3月4日(土) | 安曇野の気になる生き物たち | 那須野雅好 (文書館職員) |
| 3 1月14日(土) | 困った生きもの —市に寄せられた生物苦情の現場から— | 幅 拓哉 (市文化課職員) | 8 3月11日(土) | 住吉庄の開発と領主たち | 逸見大悟 (市文化課職員) |
| 4 1月28日(土) | すばらしき「野良着」 | 宮本尚子 (博物館学芸員) | 9 3月25日(土) | 発掘調査からわかった古代の開発 | 山下泰永 (市文化課長) |
| 5 2月4日(土) | 黒沢洞合自然公園はじまり物語 —中学生が創った公園の話— | 窪田尚幸 (博物館学芸員) | | | |

「シラム 市誌編さんだより」第6回

血取り原

市誌編さん専門調査会
民俗部会 専門調査員 巻山圭一

なにやら恐ろしいタイトルですが、これはかつて各地にあった馬繕いをする場所。馬繕い場(繕い原)のことです。馬繕い場は、馬の悪血を抜いたりしたことから、血取り場や血取り原と呼ばれていました。血取り原は、馬の健康を保つために必要な場所です。馬が暴れることなく馬繕いができるようにと、そのほとんどが木枠の囲いで築かれていました。

繕いというのは、悪血を抜くほか、ひづめを削ったり、腹痛み(ナイラなどと呼ばれる)に効く薬を飲ませたりするなどの馬のケアのことです。「伯楽」と呼ばれる民間の獣医のような人が定期的に行っていました。

かつては決して珍しいものではなかった血取り原。市内では三郷七日市場の畜産神社に鎮座する「下の観音原」が血取り原の一つでした。時代



三郷七日市場の「下の観音原」

が変わり、今では知っている人も少なくなりましたが、ここ安曇野においても馬が生活や日常の一部であったことを伺い知る、そんな場所です。